

# 2018 年度 事業報告・会計報告

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

## NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「聞き書き甲子園」の活動と、この事業に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人と人との「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系—地球—」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の使命と社会的役割について、会員の皆様の積極的な議論を期待するとともに、引き続き、活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 第1号議案-1 2018年度事業報告 <2018年5月1日～2019年4月30日>

### 概要

私たちのNPOは、「人と自然・人と人との『共存』を基本とした社会づくりと新たな価値観の創造に寄与する」活動を展開しています。

2002年に始まった「聞き書き甲子園」は、本年度、第17回の開催となりました。

本年度も、全国の森・川・海の「名人」を、高校生が「聞き書き」しました。

「聞き書き」は、人と人、人と自然、世代と世代の関係性をつなぎ直し、未来を担う次世代を育てる活動です。

高校生による「聞き書き」は、大分県・石川県の世界農業遺産地域でも、当NPOがサポートし、実施しています。「聞き書き」を通して、農を営む風土や景観を持続可能な形で保全・利用し、将来につなぐことが目的です。

「聞き書き」の活動をきっかけに、学生たちが自発的に農山漁村をフィールドに展開する「共存の森づくり」の活動を千葉県と新潟県の2地域で行いました。

海外では、昨年度と同様に、インドネシアの高校生とともに、民族の言語や文化の多様性を尊重し、その豊かさを語り伝えるための「聞き書き」に取り組みました。

当NPOでは、小・中学生にも、自然を五感で感じることの大切さや、人に話を「聞く」楽しさを伝える活動を行っています。

「学校の森・子どもサミット」では、全国の小学生が、森林での学びや体験を発表し、相互に交流する活動を行っています。

また、中学生を対象とした聞き書きプログラム「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」を新たに実施しました。東京都奥多摩郡檜原村での聞き書きを、影絵芝居として表現しました。

また、農山村での多様な生き方、働き方を志す社会人を対象とした人材育成塾「真庭なりわい塾」（岡山県真庭市）は、第2期実践講座（2年目プログラム）と第3期基礎講座（初年度プログラム）を開催しました。

当NPOの活動や人材育成の対象は、小・中学生から高校生、大学生、社会人と多岐にわたりますが、「人と自然・人と人との『共存』を基本とした社会づくりと新たな価値観の創造に寄与する」という、活動の理念に変わりはありません。

会員の皆様、そして行政や企業、団体、市民の皆様の活動に対するご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、以下、それぞれの活動の詳細についてご報告を申し上げます。

## I 組織

### 1. 会員（2019年4月18日現在）

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員
正会員	43人	40人(+1)	
賛助会員	30人41口(+2)		3社7口(-1)

※ユース会員・・・・・・満23歳未満で正会員となる方

※()・・・・・・昨年同時期からの増減

### 2. 役員（敬称略）

体制表

役職	氏名	所属等
理事長	澁澤 壽一	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事
理事	吉野 奈保子	「聞き書き甲子園」実行委員会事務局
理事	工藤 大貴	桑沢デザイン研究所在学（第8回聞き書き甲子園参加）
理事	峯川 大	アサヒビジネス株式会社所属（第9回聞き書き甲子園参加）
理事	本多 美優	ハイジ・インターフェイス株式会社所属
監事	須河 紗也子	南砺市商工会利賀村事務所 所属
監事	中山 幹生	(株) 森里川海生業研究所 所属

## II 事業

### 1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

#### ① 第17回「聞き書き甲子園」の開催

「聞き書き甲子園」は、毎年全国の高校生100名が、森・川・海の名人100名を訪ね、自然とともに生きる知恵や技、その生きざまを「聞き書き」によって記録し、発信する活動です。「聞く」ことを通して世代間のコミュニケーションを図り、持続可能な社会を担う若者を育成することを目的に平成14年度より実施しています。

本年度は、全国110校から201名の高校生の応募があり、うち100名の参加を決定しました。80名が「森の名手・名人」に、20名が「海・川の名人」に「聞き書き」し、作品をまとめました。

事業の運営には学生22名がサポートスタッフとなり、研修プログラムやフォーラム開催日の夜のワークショップ等を企画しました。フォーラムの2日目には京都精華大学の兼松 佳宏さんをお招きし、「beの肩書き（自分はどういう存在でありたいか）」についてワークショップを行いました。

参加高校生の感想には、名人への感謝や敬意のほか、自分自身の成長を実感したという内容が多くありました。また、曖昧だった将来の進路やビジョンが明確になったという意見も見られました。教員や保護者からは、高校生の積極性が向上したことを評価いただきました。

なお、同事業は農林水産省、文部科学省、環境省、(公社)国土緑化推進機構、(公社)全国漁港漁場協会、全国内水面漁業協同組合連合会と当NPOの7者で構成する実行委員会が主催し、(株)ファミリーマートをはじめとする下記の企業・団体からの支援と(公財)日本財団の助成金で実施しました。

#### [実施スケジュール]

2018年 5月10日	参加高校生募集開始
6月25日	募集締切り
7月12日	参加高校生決定
8月11日～14日	事前研修実施（於：東京）
9月～12月	名人への取材（於：全国）・聞き書き作品づくり
2019年 12月25日	作品提出締切り・「聞き書き作品集」製作開始
3月16日～17日	フォーラム開催（於：東京）
4月24日	「聞き書き作品集」完成・発送

※5月29日と10月26日に、「聞き書き甲子園」に関わる行政、企業、団体、学生スタッフ等が集まり、活動の実施状況と今後の展開について意見を交わすFOXFIRE倶楽部を開催しました。

※「聞き書き甲子園」は、以下の企業・団体にご支援、ご協賛をいただいています。

募金協力・企業寄付：株式会社ファミリーマート

協賛・協力：トヨタ自動車株式会社、富士フィルムホールディングス株式会社、京王電鉄株式会社、株式会社ティムコ、株式会社トンボ、株式会社長塚電話工業所、株式会社ベネッセコーポレーション、マルハニチロ株式会社、一般財団法人環境文化創造研究所、公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会、公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団

助成：公益財団法人日本財団、一般社団法人昭和会館

#### ・「聞き書き作品」電子図書館化

毎年、高校生がまとめた「聞き書き作品」は、聞き書き作品集として冊子にまとめるとともに、(一社)農山漁村文化協会(ルーラル電子図書館を運営)のご協力により、「聞き書き電子図書館」に順次収録し、ネット上で公開しています。本年度は、前年度の作品の収録作業を行いました。

#### ・名人の選定事業

本年度は、(公社)国土緑化推進機構により「森の名手・名人」68名、(公社)全国漁港漁場協会並びに全国内水面漁業協同組合連合会により「海・川の名人」6名が、新たに選定表彰されました。名人不足分は、過去に認定された「森の名手・名人」2名と「海・川の名人」14名に、高校生の取材を受け入れていただきました。

#### ・協力市町村の公募

「森の名手・名人」「海・川の名人」の選定表彰制度が終了することに伴い、第18回「聞き書き甲子園」からは、地域の名人の推薦と高校生の受け入れに協力する地域(市町村)を公募することとなりました。6月28日～9月28日までの公募期間に、18地域より応募いただき、うち12の協力地域を決定しました。協力地域には、それぞれ6～8名の「名人」(計80名)を推薦いただきました。

#### ・新規ホームページの制作

第18回開催に向けて、「聞き書き甲子園」ホームページをリニューアルしました。「知る」「参加する」「市町村(地域)の方へ」「応援する」という4つのカテゴリで、聞き書き甲子園の取り組みを紹介するとともに、過去の聞き書き作品を紹介する「聞き書きの本棚」やOB・OGがつづる「列島ききがきノート」のページを新設しました。

#### ・「Edu Town あしたね」との協働事業

東京書籍(株)が運営する「Edu Town あしたね」は、小・中学校のキャリア教育を支援する総合サイトです。「聞き書き作品」を広く、小・中学校の教育現場で活用いただくために、同サイトに「海・川の仕事人」に関する特集ページを開設しました。

サイト URL : <https://ashitane.edutown.jp/umikawa/>

また、「聞き書き甲子園」の活動紹介や、小・中学校の授業での実践事例を掲載。また、聞き書きの実践や調べ学習を行う際に活用いただくように、ワークシートも作成し、掲載しました。

サイト URL : <https://ashitane.edutown.jp/umikawa/worksheet/>

### ③ きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～の実施

東京都環境局ならびに檜原村と協働で、都内の中学生を対象とした「聞き書き」の活動を新たに実施しました。同プロジェクトは、東京都の自然公園(主として秩父多摩甲斐国立公園エリア)内の山村地域で、都内の中学生が林業等の従事者に「聞き書き」を実施。あわせて、その内容を影絵等で表現する活動や、地域を再訪するプロジェクトを行うことにより、生物多様性保全等の担い手となる次世代を育成するとともに、自然公園エリアの関係人口の創出に寄与するものです。

本年度は、11月23日～25日に、田中林業株式会社等の協力を得て、「聞き書き体験プログラム」を実施。参加中学生6名が、大学生9名のサポートのもと、林業家や川漁師に「聞き書き」をしました。聞き書きや林業体験で感じたことをもとに、中学生1人1人が、掌編小説を執筆しました。

また、3月21日に都民ホールにて、村の魅力を伝える影絵師芝居「檜原村ものがたり」の発表会を行いました。およそ100名の来場者(関係者含む)に自然公園エリアに興味を持ってもらう

きっかけとなりました。

※本年度は、以下の企業・団体にご支援・ご協賛を頂いています。

協賛：東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」

助成：トヨタ環境活動助成プログラム、(公社)国土緑化推進機構「緑の募金」

協力：(株)ベネッセコーポレーション進研ゼミ中学講座

## 2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

### ① 「共存の森」の活動

農山漁村地域をフィールドに、人の暮らしと自然とのつながりを学び、未来へとつなげる活動です。本年度は2地域で活動を行いました。

<各地区の活動概要>

関東：千葉県市原市の「鶴舞創造の森」で、下草刈りや朽木の除伐を行い、安全に遊歩道を通行できるようになりました。山小川地区では、地域行事への参加を通して、地域の方との信頼関係をさらに深めました。

北陸：新潟県村上市高根地区では、植樹したブナ林の整備活動に取り組みました。

2mを超える雑草の下草刈りに加え、ブナ苗木の補植、また、雪による枝折れ被害を防ぐため、ブナの生長に応じて枝払い作業も実施しました。その他、ブナ林の下に広がる棚田での米づくり体験、天蓋高原ビオトープを活用したツアー等のプログラムを行いました。

《活動回数と参加者》

関東地区	3回、延べ	23人（1回当たり平均7.6人）
北陸地区	5回、延べ	66人（1回当たり平均13.2人）

活動回数：フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

参加者：活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

《助成》

(公社)国土緑化推進機構「緑の募金」中央公募事業

## 3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

### ① 「学校の森・子どもサミット」の開催

「学校林」等、身近な緑を活用した体験活動や教育活動の発表、先生方との意見交換等を通じて、小・中学校の森林環境教育の輪を全国に広げていくことを目的に開催しています。林野庁とその関連団体等によって構成する実行委員会が主催し、当NPOは事務局を担当しています。

5年目となった本年度は、福井県福井市と若狭町で、7月30日～31日の1泊2日で開催しました。初日は福井県県民ホールで、11校59名の児童がそれぞれの学校での活動事例を発表しました。あわせて、アクティブラーニングと幼少連携をテーマとした2つの分科会を開催しました。来場者は約250名。参加した児童は三方青年の家に宿泊。翌日は、三方五湖のひとつである久々子湖で、生き物調査やシジミ採りの体験活動を行い、森と湖のつながりを学びました。

※「第4回 学校の森・子どもサミット 夏大会」は、以下の企業・団体にご支援、ご協賛をいただいています。  
特別協賛：積水化学工業株式会社、一般財団法人セブン-イレブン記念財団  
協賛：前田建設工業株式会社、三井ガーデンホテルズ、三菱 UFJ ニコス株式会社、日本郵便株式会社、トヨタ自動車株式会社、一般社団法人大阪林業土木協会、一般社団法人日本森林技術協会、株式会社服部商会、株式会社前田産業、一般社団法人全国木材組合連合会、全国国有林造林生産業連絡協議会、嶺南林業振興会、山田兄弟製紙株式会社、FOREST MEDIA Inc  
助成：積水ハウスマッチングプログラム、公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」

## ② 「第5回 海辺の自然再生・高校生サミット」の開催

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、全国でアマモ場の再生活動等に取り組む高校生の発表と交流を通して、次世代に活動の輪を広げていくことを目的に実施しています。

本年度は、大阪府阪南市で、11月3～4日に開催した「全国アマモサミット2018 阪南」のプログラムの一部として、公益財団法人セブン-イレブン記念財団とマルハニチロ株式会社にご協賛いただき実施しました。開催前日、参加校の生徒は阪南・尾崎の町並みや漁港を見学。全国アマモサミット当日は、会場で傍聴参加し、最終日の4日には、12校が活動事例の発表を行いました。

## ③ インドネシアの地方言語と伝統的知識の継承のための「聞き書き」の普及

(独法)環境再生保全機構の地球環境基金に助成により、昨年度に引き続き、インドネシアの地方言語と伝統的知識の継承を目的とした高校生による「聞き書き」を、島上宗子氏(一社あいあいネット共同代表)と協働で実施しました。

7月19～21日には、ゴロンタロ国立大学を会場に、25校50名の高校生が参加する研修会を実施。その後、34名の生徒たちが自然とともに生きてきた名人(職人や漁師等)を訪ね、取材し、作品をまとめました。2月2日にボゴール農業大学で開催した成果発表会には、行政関係者、教員、NGO等、約60名が参加。参加高校生を対象に、国際種子銀行(ICBB)やブブラック区ゴミ銀行を訪問し、地域の未来を考えるフィールドトリップも行いました。また、今後とも継続して「聞き書き」を実施するための現地体制づくりに向けた協議を、NGOや大学関係者等と行いました。

## 4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

### ① 「世界農業遺産」地域の聞き書き

国際連合食糧農業機関(FAO)は、グローバル化、環境悪化、人口増加の影響により衰退の途にある伝統的な農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用が図られている地域を「世界農業遺産」に認定しています。日本国内で同遺産に選定された「能登の里山里海」(2011年認定/石川県)と「クヌギ林とため池をつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」(2014年認定/大分県)の2地域では、地元高校生が地域の持続可能な知恵を未来に引き継ぐ「聞き書き」を実施。その運営を当NPOが受託しています。

#### ・能登の里山里海人の知恵の伝承事業

前年度に引き続き、石川県世界農業遺産活用実行委員会より委託を受け、「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を実施しました。7校16名の高校生が研修会に参加し、7名の「能登の里山里海人」の聞き書きを行い、それらを作品集にまとめました。

#### ・大分県国東半島宇佐地域での高校生による聞き書き

前年度に引き続き、大分県から委託を受けて「国東半島・宇佐地域での高校生による聞き書き



事業」を実施しました。9校 26名の高校生が研修に参加し、9名の名人への聞き書きを行い、それらを作品にまとめる指導を行いました。

## ② 真庭なりわい塾の実施

「真庭なりわい塾」は、岡山県真庭市中和地区を主なフィールドとし、「あるく・みる・きく」ことを通して、地域を学び、これからの生き方・働き方、持続可能な社会のカタチを考える人材育成塾です。岡山県真庭市、中和地区住民、当 NPO の3者による実行委員会が主催し、当 NPO は真庭市交流定住推進課とともに事務局を担っています。本年度は、第3期塾生 21 名を迎え入れ、6月より翌年1月までの計8回の講座を実施しました。また、第2期の塾生は、里山チーム、農チーム、空き家活用（えがお商店）チームの3つのプロジェクトに分かれた実践講座（2年目プログラム：計5回）に参加し、活動を行いました。

なお、同塾の開催は、岡山県真庭市の補助を得て実施しました。

## 5. その他

### ① インターン生の受入れ

公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSO ラーニング制度」により、2018年6月から翌1月まで、早稲田大学3年生の柴田大輔さんとフェリス女学院大学3年生の佐々木ユナさんをインターン生として受け入れました。

### ② 広報活動

広報活動は、ホームページ、オフィシャルブログ、facebook、インスタグラム、twitter 等を通して行いました。

第1号議案-2 2018年度決算報告  
1. 2018年度決算についての監査報告書

---

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2018年度決算について監査の結果、事業報告は事業の  
内容を適切に反映していると認めます。

2019年 6 月 13 日

特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 中山 幹生 

## 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2018年度決算について監査の結果、事業報告は事業の

内容を適切に反映していると認めます。

2019年 6 月 13 日

特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 須河 紗也子 

## 2. 2018年度 活動計算書

書式第13号(法第28条関係)

平成30年度 活動計算書			
平成30年 5月 1日から平成31年 4月30日まで			
特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク (単位:円)			
科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	305,000		
賛助会員受取会費	268,000	573,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金		42	
3 受取助成金等			
受取助成金	45,016,889		
受取協賛金	5,100,000		
受取補助金	10,611,206	60,728,095	
4 事業収益			
青少年教育事業収益(注1)	161,042		
普及啓発事業収益(注2)	78,308		
森づくり事業収益(注3)	313,842		
地域づくり事業収益(注4)	2,393,314	2,946,506	
5 その他収益			
受取利息	379		
雑収益	864,136	864,515	
経常収益計			65,112,158
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
理事報酬	3,120,000		
給料手当	9,290,800		
法定福利費	1,477,013		
人件費計	13,887,813		
(2)その他経費			
広告宣伝費	230,972		
印刷費	3,167,221		
支払手数料	298,252		
制作費	8,179,340		
施設借上費	1,025,524		
講師料	2,712,164		
リース料	670,032		
原稿料	555,500		
水道光熱費	5,289		
車両借上費	2,331,534		
事務用品費	370,034		
消耗品費	53,965		
地代家賃	1,200,000		
保険料	145,736		
租税公課	1,200		
旅費交通費	22,674,720		
通信運搬費	1,211,341		
諸会費	220,800		
会議費	442,425		
新聞図書費	3,900		
委託費	2,382,047		
道具資材費	253,250		
雑費	43,912		
その他経費計	48,179,158		
事業費計		62,066,971	
2 管理費			
(1)人件費			

福利厚生費	9,720		
人件費計	9,720		
(1)その他経費			
印刷費	24,840		
支払手数料	30,754		
施設借上費	300		
事務用品費	250,904		
消耗品費	6,206		
保険料	2,811		
租税公課	77,880		
旅費交通費	3,240		
通信運搬費	59,115		
委託費	209,520		
繰延資産償却	262,500		
その他経費計	928,070		
管理費計		937,790	
経常費用計			63,004,761
当期経常増減額			2,107,397
税引前当期正味財産増減額			2,107,397
当期正味財産増減額			2,107,397
前期繰越正味財産額			17,702,372
次期繰越正味財産額			19,809,769

### 3. 2018年度 計算書類の注記

書式第16号(法第28条関係)

#### 平成30年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

#### 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(平成22年7月20日 平成23年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

##### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

#### 2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	青少年教育 事業(注1)	普及啓発事 業(注2)	森づくり事業 (注3)	地域づくり事 業(注4)	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>							
1. 受取会費					0	573,000	573,000
2. 受取寄附金			42		42		42
3. 受取助成金等	40,301,501	11,401,000	3,284,799	5,690,795	60,678,095	50,000	60,728,095
4. 事業収益	161,042	78,308	313,842	2,393,314	2,946,506		2,946,506
5. その他収益					0	864,515	864,515
経常収益計	40,462,543	11,479,308	3,598,683	8,084,109	63,624,643	1,487,515	65,112,158
<b>II 経常費用</b>							
(1) 人件費							
理事報酬	2,860,000			260,000	3,120,000		3,120,000
給料手当	5,158,800	2,762,000	150,000	1,220,000	9,290,800		9,290,800
退職金					0		0
法定福利費	1,043,131	245,340		188,542	1,477,013		1,477,013
福利厚生費					0	9,720	9,720
人件費計	9,061,931	3,007,340	150,000	1,668,542	13,887,813	9,720	13,897,533
(2) その他経費							
広告宣伝費	200,880			30,092	230,972		230,972
活動費					0		0
印刷費	2,486,048	599,305	81,868		3,167,221	24,840	3,192,061
支払手数料	297,388	864			298,252	30,754	329,006
制作費	6,369,468	820,000	856,227	133,645	8,179,340		8,179,340
施設借上費	576,504	153,460	268,080	27,480	1,025,524	300	1,025,824
講師料	990,964	523,644	158,145	1,039,411	2,712,164		2,712,164
リース料	670,032				670,032		670,032
原稿料	435,500			120,000	555,500		555,500
水道光熱費	2,684		2,605		5,289		5,289
車両借上費	1,015,657	401,413	495,260	419,204	2,331,534		2,331,534
事務用品費	358,213	4,079	1,312	6,430	370,034	250,904	620,938
消耗品費	47,919	2,152	3,894		53,965	6,206	60,171
地代家賃	1,100,000			100,000	1,200,000		1,200,000
保険料	90,309	28,588	11,308	15,531	145,736	2,811	148,547
修繕費							0
租税公課	200		600	400	1,200	77,880	79,080
旅費交通費	14,412,620	4,143,858	804,282	3,313,960	22,674,720	3,240	22,677,960
通信運搬費	1,064,989	74,953	38,631	32,768	1,211,341	59,115	1,270,456
諸会費		220,800			220,800		220,800
会議費	98,585	195,686	89,204	58,950	442,425		442,425
新聞図書費		3,900			3,900		3,900
委託費	1,002,182	532,398	207,467	640,000	2,382,047	209,520	2,591,567
道具資材費	821	90,000	162,429		253,250		253,250
雑費	25,098			18,814	43,912		43,912
繰延資産償却					0	262,500	262,500
その他経費計	31,246,061	7,795,100	3,181,312	5,956,685	48,179,158	928,070	49,107,228
経常費用計	40,307,992	10,802,440	3,331,312	7,625,227	62,066,971	937,790	63,004,761
当期経常増減額	154,551	676,868	267,371	458,882	1,557,672	549,725	2,107,397

#### 3. 事業正式名称

(注1)人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

(注2)「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

(注3)「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

(注4)「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

事務局

吉野 奈保子（事務局長）

関 友美

大谷 めい

工藤 大貴

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-11-26 コスモリヴェール松原 310 号

TEL: 03-6432-6580 FAX: 03-6432-6590 E-mail: [mori@kyouzon.org](mailto:mori@kyouzon.org)

<http://www.kyouzon.org/>